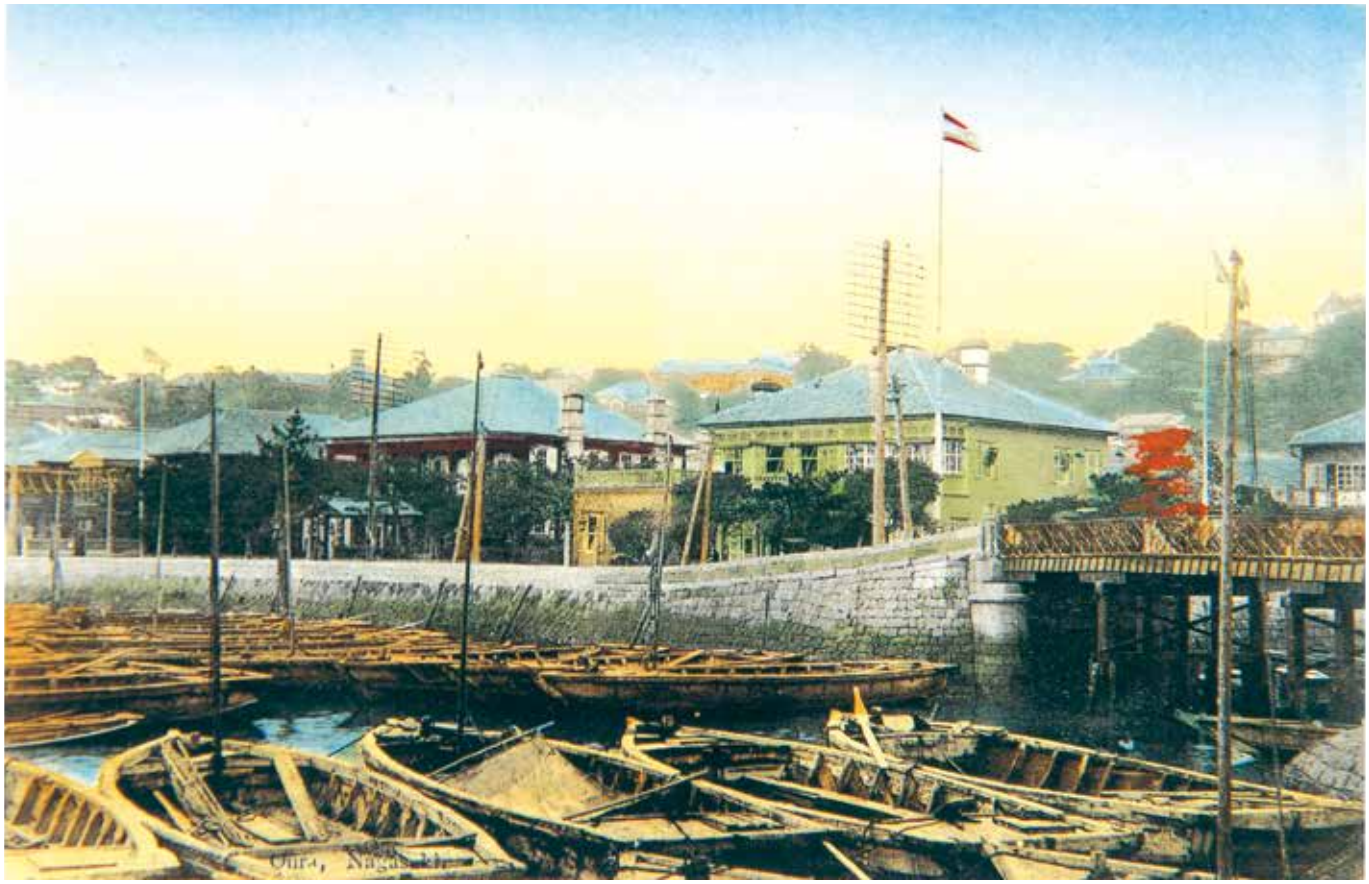
長崎日英協会会報

THE NAGASAKI

BUND



明治 40 年前後の写真に彩色を施した絵葉書。
松ヶ枝の波止から撮影したもので、右手の松ヶ枝橋は明治 30 年代に架け替えられた３代目のものである。
背後の東山手の丘には、左側に活水のラッセル館、右端にはまだ２階建てだった海星学園本館の一部がみえる。
ドイツ領事館の右上にある望楼風の２階がついた建物は一見、平成修理前の十二番館によく似るが、位置からすれば東山手７番のものであった。明治後期には、こうした屋根上に望楼をおく形式が一種の流行現象だったことが知られる。

（写真：神戸市立博物館所蔵）

2018・6
vol,21

長崎日英協会 創立20周年・旭川日英

旭川日英協会森山会長(左)と
長崎日英協会小川会長(右)

2017年(平成29年)10月8日(日)、ＡＮＡクラウンプラザホテル長崎グラバーヒルで、長崎日英協会30名、旭川日英協会26名が出席し「長崎日英協会創立20周年・旭川日英協会創立25周年合同記念祝賀会」を開催しました。

祝賀会はウォーカージェームス正良氏によるバグパイプ演奏の中、旭川日英協会の皆様をお迎えしスタートしました。開催にあたり長崎日英協会小川会長は「旭川日英協会の皆様と合同で祝賀会を開催できることを大変嬉しく思います。旭川日英協会様は、1992年4月に協会を設立し、英国との文化交流や会員相互の親睦を図るため「エリザベス会」「若者会」を作り積極的な活動をされておられます。長崎と旭川は遠く離れていますが、これからも両協会で協力しながら、日本と英国の交流に尽くしていきましょう。また本日、長崎は「おくんち」真只中です。旭川の皆様にも秋の長崎の魅力を存分に堪能して頂けていることと思います。今日は、両協会の創立25周年・20周年を祝って思い出に残る楽しい会にしましょう。」と歓迎の挨拶をされました。次に旭川日英協会の森山会長が「英国との長い歴史を持つ長崎に来ることができて大変嬉しく思っています。旭川と長崎は、英国との歴史的背景も風土も違いますが、これからも両協会で協力しながら日本と英国との交流をますます深めていきましょう。」とご挨拶をされました。

乾杯・歓談の後、旭川日英協会活動のDVD鑑賞、「旭川日英協会歌」の合唱の後、長崎県オペラ協会によるオペラ斉唱と続き、最後には出席者全員で「長崎の鐘」を合唱しました。旭川と長崎、その距離を感じさせない和やかで和気あいあいとした交流となりました。今後も両日英協会が協力し、共に日英両国の民間親善交流に貢献していければと強く思える貴重な機会となりました。

長崎県オペラ協会の方々

協会 創立25周年合同記念祝賀会開催

「旭川日英協会会報誌」に掲載された祝賀会の様子

長崎日英協会さんとの交流

イベント推進委員会　本間　雄二

今回の長崎旅行いちばんの目的は、長崎日英協会さんとの交流会でした。

二日目の市内視察をひととおり終え、ホテルのロビーで待つ我々のところへ定刻にお迎えが来て、バグパイプの演奏が流れる会場に通されます。大橋事務局長3年越しの念願成就の瞬間です。着席の後、日英両国国家静聴、小川洋会長、森山領会長のご挨拶、旭川から会員バッヂ・バナーの寄贈と進み、双方の事務局による会員紹介、天池エリザベス会会長の発声で乾杯、祝宴となりました。

長崎日英協会の小川会長による歓迎のご挨拶では、長崎日英協会がことし20周年を迎えたこと、2019年にラグビーワールドカップが日本で開催されることを受けて、スコットランドチームが合宿地に長崎を選んだこと、そして旭山動物園の一番の人気者=カバのもも吉が長崎バイオパーク出身であることなどを話題にされました。

森山会長は、おもてなしへの深い感謝の気持ちとともに、旭川日英協会発足の経緯をご紹介。長崎に比べると、英国領事館があるわけではなく、グラバーさんもいないような土地柄ではあるが、英国を彷彿とさせる隣まち美瑛の丘陵地帯の広がりの地理的条件、かつてヒゲの殿下こと寛仁親王が来旭され、自宅にお泊まりになったおりに、ご著書の「ともさんのえげれす留学」を多数持参され、英国との文化交流を強く勧められたことが契機となったことなどを語りました。

また、つい最近の出来事として、先日ノーベル文学賞を受賞したばかりの日系イギリス人の石黒一雄氏がご当地長崎県出身であったこと、同じくノーベル平和賞の発表直後に、平和への深い祈りとともにあるこの長崎市に滞在していることに触れて、「我々は持っている！」と感じていると話しました。

乾杯のご挨拶に立ったエリザベス会天池会長は、全国唯一の女性部会として、会歌やバッヂの制作、サマー例会＆レッドノーズデイへの貢献といった日頃の活動を紹介したあと、グラスに満たした男山の銘酒「笹おり」を高く掲げて乾杯を宣言しました。

開宴後は和やかな歓談の合間に、両日英協会の足跡を記録したDVDの鑑賞、旭川組による会歌の披露がありました（昼食会場の中華料理店で直前練習！さすがオラトリオ組は素晴らしい！！）。後半は長崎県オペラ協会の女性４人による素晴らしいオペラ歌唱に感動しました。彼女たちの衣裳の色分けはユニオンジャックに倣ったそうです。終盤には懐かしの名曲「長崎の鐘」を全員で合唱し、エイ・エイ・オーにて拳を突き出して豪快に閉宴しました。こうして瞬く間に２時間半の交流会が終わり、くんちで賑わう夜景の美しい長崎の街に繰り出したのでした。

平成29年度理事会･通常総会･講演会開催

ブライアン・バークガフニ教授

2017年(平成29年)6月28日(水)、ＡＮＡクラウンプラザホテル長崎グラバーヒルで「平成29年度長崎日英協会理事会」及び「通常総会」を開催いたしました。今年は長崎日英協会創立20周年の節目の年にあたり、総会に先立ちこれまでの歩みを振り返る動画の披露がありました。その後、「平成28年度の事業・決算報告」及び「平成29年度の事業計画・予算」等が審議承認されました。総会終了後、長崎総合科学大学ブライアン・バークガフニ教授に「旧オルト住宅の英国人たち」と題してご講演いただきました。教授は、「長崎にはイギリスとの長い交流の歴史の中で先人たちが残してくれた重要な文化財がまだ多く残っていますので、今後もグラバー園で積極的に紹介していきたいと思います。」と話されました。

セーラ･ウテン駐大阪英国総領事来訪

セーラ・ウテン駐大阪英国総領事（右）

2017年(平成29年)6月22日(木)、セーラ・ウテン駐大阪英国総領事が来崎され、宮脇雅俊長崎商工会議所会頭、小川洋長崎日英協会会長を表敬訪問されました。

セーラ・ウテン総領事は「長崎は英国と歴史的にとても深い結びつきがあります。また、個人的にも20年前にホームステイした思い出の地でもありますので、今回の訪問をとても楽しみにしていました。今後も日英両国そして長崎との交流を深めていきたいと思います。」と話されました。

「長崎日英協会・長崎日米協会合同クリスマス夜会2017」開催

ドミニク・ソー領事

スコットランドラグビーチームの方々

2017年(平成29年)12月6日(水)、ＡＮＡクラウンプラザホテル長崎グラバーヒルで「長崎日英協会・長崎日米協会合同クリスマス夜会2017」を開催いたしました。

今年で9回目となる本パーティーには、ドミニク・ソー在福岡米国領事館総務・領事担当領事を始め両協会会員および英米関係者約120名の方々にご参加いただきました。

また、2019年開催ラグビーワールドカップの事前・公認キャンプを長崎で実施する「スコットランドラグビーチーム」コーチングスタッフ3名の方々にもご参加いただき、キャンプ歓迎の機運を大いに盛り上げました。今回は、長崎県文化観光国際部5名の方々に通訳ボランティアとしてご参加いただいたことで例年以上に皆さんの会話が弾み、終始和やかな雰囲気で一足早いクリスマスを楽しみました。

「異文化ちゃんぽんフェスタ」に出展

2018年(平成30年)1月20日(土)、長崎ブリックホールで、長崎市主催「長崎異文化ちゃんぽんフェスタ」が開催されました。世界各国の文化への理解を深めてもらうことを目的に開催されるイベントで、9団体がステージで演奏を披露、23団体がブースで各々の活動を紹介しました。

長崎日英協会は、グラバーパイプバンドと協力して、英国文化についての紹介を行いました。当協会はブースで英国ゆかりの紅茶とお菓子を振舞い、グラバーパイプバンドはバグパイプの演奏やキルトの試着体験コーナーを出展しました。この日、会場には過去最高の約850人が訪れ、スタッフは大忙しでしたが、英国の文化を紹介しながら多くの方と交流ができとても楽しい1日となりました。

第38回グラバー顕彰式に出席

写真提供：長崎市

2017年(平成29年)9月16日(土)、長崎伝統芸能館内において、長崎市主催「第38回グラバー顕彰式」が執り行われました。式典には田上富久長崎市長をはじめ、英国と親交のある各団体の代表者が出席され、在りし日のグラバーを偲びその功績を称えました。参列者の献花の後、バグパイプの演奏や居留地男声合唱団による歌声が披露されました。

「第26回長崎県高等学校英語スピーチコンテスト」に後援

2017年(平成29年)10月7日(土)、長崎県立大村高等学校で「第26回長崎県高等学校英語スピーチコンテスト」が開催されました。大会には、県内各地から20名が参加し、第1部（海外滞在未経験者）と第2部（海外滞在経験者）に分かれて日頃の成果を発表しました。

【結果】

第1部　優勝　山口紗希さん（聖和女子学院高校2年）
第2部　優勝　佐藤花和さん（諫早高校2年）

【優勝者の感想】

山口紗希さん

「今回のスピーチは、平和がどれだけ大切か、今の日本の生活がどれだけ恵まれているのかを考えてほしいという気持ちを込めて読みました。次は長崎県代表として、より多くの方々に自分の想いを伝えられるように頑張ってまいります。」

佐藤花和さん

「このスピーチコンテストに参加する機会を与えていただいて本当によかったと思います。指導してくださった先生方、この機会を与えてくださった方々、私の伝えたい気持ちを受け取ってくださった方々に感謝しています。」

「第12回長崎県高等学校英語ディベート大会」に後援

2017年(平成29年)10月21日(土)、長崎県立佐世保西高等学校で「第12回長崎県高等学校英語ディベート大会」が開催されました。7校7チーム37名が参加し、日頃の英語学習の成果を発表しました。

【審査結果】

1位　　長崎北陽台高校
2位　　壱岐高校
ベストディベーター賞　大原良太さん（長崎北陽台高校）

【長崎北陽台高校メンバーの感想】

○今回のディベート大会に出場して、人前で話す力をより身につけることが出来たと思います。最初話すとき、緊張して話せなくなってしまったりすることが多かったのですが、1回戦、2回戦と重ねるごとに自分に自信がつき、しっかり話せるようになりました。

○ディベート大会は準備が重要だということがわかりました。ただ準備したものを読むだけでは九州大会では通用しないと思うので、練習してその場で対応する力をつけて九州大会に臨みたいと思います。今回は優勝できてよかったです。

「第5回活水女子大学エリザベス・ラッセル杯英語スピーチコンテスト」に後援

2017年(平成29年)10月14日(土)、活水女子大学東山手キャンパスで「第5回活水女子大学エリザベス・ラッセル杯英語スピーチコンテスト」が開催されました。『グローバル社会の一員として考える』をテーマに予選を通過した9名が英語スピーチを披露しました。

【審査結果】

1位　長谷川舞さん（聖心女子大学文学部英語英文学科2年）
2位　藤下　朋さん（活水女子大学文学部英語学科3年）
3位　高木結衣さん（活水女子大学文学部英語学科3年）

第1位の長谷川さんは在日韓国人である自らが差別的な発言に傷つけられた経験に触れ、積極的に対話し、偏見を捨てて互いに尊重し合う社会を築いてゆきたいとの強い思いを語りました。

～長崎の英国人紹介～

こんにちは！アビー・フィルポットです

・自己紹介

私の名前はAbbie Philpott（アビー・フィルポット）です。母はアイルランド出身ですが、私はイギリス出身です。現在は南島原に住み、中学校と小学校でALTとして働いています。私の仕事はJTE（日本人英語教師）やクラス担任の英語での授業を手伝うことです。私は生徒に楽しく英語を教えながら外国の様々な文化を紹介できるように頑張っています。私の趣味はランニングすること、フェルトで物を作ること、習字、そしてケーキを作ることです。

・日本に興味をもったきっかけ

私は大学時代、物理地理学で地震と津波を勉強しました。イギリスでは地震や津波はほとんど起こりませんが、日本では珍しいことではありません。私は日本の地理をたくさん勉強していくうちに日本に興味をもつようになりました。実際に日本に来て自然にふれたりその文化を体験できていることをとても嬉しく思っています。

・日本でのお気に入り

私は日本のお祭りが大好きです。日本ではいつもどこかでお祭りがあっている気がします。私はお祭りに行くたびに、新しいことを経験したり学んだりしています。最近では地元の酒祭りに行きました。そこで美味しいお酒を作るためには、その土地の有名な美味しい水を使うことが大切だと知りました。日本人はとても親切で、私が知らないことを英語で説明してくれます。私はお祭りに招待されたことがあります。お祭りの衣装を着て、火のついた松明を持つなど初めての体験をすることができ、とても楽しかったです。たとえ小さなお祭りでも参加して美味しい物を食べて、初めて出会う人たちと話をすることが大好きです。

編集後記

「長崎日英協会創立20周年記念祝賀会」を「旭川日英協会」様と合同で開催することができました。遠く旭川から26名の皆様にお越し頂き、楽しい北海道の話と積極的な活動内容を伺い、大変刺激を受けました。20周年を節目とし、また新たな気持ちで日英親善交流に貢献していきたいと強く感じました。

今回ご協力いただきました皆様に深く感謝致します。ありがとうございました。

編集・発行/長崎日英協会（株式会社 長崎経済研究所内）
住所：〒850-8618　長崎市銅座町1-11　十八銀行本店7階
担当者：高橋・岩永
TEL：095-828-8859　FAX：095-821-0214